

I - B - 13

アトピー性皮膚炎に対する漢方生薬入浴剤の効果
— その1 角層水分量に対する効果 —

富山医科薬科大学皮膚科学教室

○関 太輔、豊田雅彦、諸橋正昭

【目的】アトピー性皮膚炎患者の皮膚では表皮脂量の減少、表皮水分保持能の低下などが知られており、これらがアトピー性皮膚炎の増悪因子、あるいは最近では発症因子としても注目を集めている。表皮水分保持能に関する因子には様々なものが考えられているが、表皮脂質あるいは表皮細胞間脂質なども重要な因子であると考えられている。われわれはこれまでに動物実験により、漢方生薬の地黄あるいは当帰に表皮脂質の合成促進作用がある可能性が示唆される結果を得ている。今回我々は地黄および当帰を用いた入浴剤を開発し、アトピー性皮膚炎の治療に併用し、かなりの効果が認められたので報告する。

【対象および方法】当科外来通院中の患者のうち、アトピー性皮膚炎と診断された小児および成人計55人を対象とした。1回につき地黄および当帰それぞれ2gを600ccの熱湯にて30分間煎じた煎液を約200ℓの適温の湯に入れて使用した。試験期間は6週間とし、2週毎に無疹部（項部、前腕屈側部）および皮疹部（前腕または上腕屈側部）の角層水分量をskin surface hydrometer (SKICON-200) を用いて測定した。また水負荷試験も合わせて行い、水分吸収能および水分保持能についても検討した。原則として未治療の症例に対しては外用剤の併用は行わない事とし、すでに治療を行っている症例においては、試験開始前の1か月間に症状の変化が認められない症例を選択し、それまでの治療を継続した。

【結果】入浴療法開始6週後の無疹部における角層水分量および水分保持能は、入浴療法開始前と比較して改善が認められた（ $P < 0.01$ ）。皮疹部においても、臨床症状の改善例では角層水分量および水分保持能の改善が認められ、全体で改善傾向が認められた（ $P < 0.01$ ）。水分吸収能は無疹部で改善が認められたが（ $P < 0.01$ ）、皮疹部では有意な差は認められなかった。

【考案】アトピー性皮膚炎患者の皮膚では角層水分量の低下が知られており、これがドライスキンの原因と考えられている。角層水分保持能の低下は表皮のバリアー機能の低下と密接に関係しており、これが表皮の炎症を誘発、増悪していると考えられている。今回用いた入浴療法により角層水分量および水分保持能の改善が認められたことから、本入浴療法はアトピー性皮膚炎に対する有効な併用療法と考えられた。